

行動する「自動機械」でもあり、しかも、理性の働きは緩慢で、すぐに「眠り込むか迷うかする」<sup>24)</sup>という。したがって、たとえば真の信仰が成立するには、理性の力で精神を納得させるだけではなく、自動機械、すなわち、無意識にふるまう身体も同時に納得させねばならないと指摘する。想像力は、意識の産物であるだけでなく、身体を通じて、行使されるのである。

### 詐欺の社会理論

さて、今一度、足利銀行横領事件に戻ろう。この事件は、銀行員であった大林が架空の貸付をでっち上げて、そこから巨額を引き上げた事件で

ある。この事件の比較の対象として興味深いのは、バブルの時代に起こった大手銀行や金融機関による一連の不正貸付事件である。返済の当てがないにもかかわらず、巨額の融資を続けるのは、事実上、架空の貸付を行うのと同じである。つまり、大林の個人的な行為と、大手銀行や金融機関が組織的に行った行為とは、質的にはほとんどどちがいはない。これは、何を意味するのか。この問いに答えることは、制度とは何か、そして、社会とは何かを解き明かすことにつながるであろう。それは、「詐欺で読む社会」とでも名づけられべき一冊の書物のなかで展開されるはずである。

## INTRODUCTION TO A SOCIOLOGY OF FRAUD

### ABSTRACT

Communication always has a “secret” part, because no one can understand perfectly what the other thinks. This characteristic of communication provides the occasion for fraud. As Simmel said, we can tell the truth as well as we can deceive the other. This paper tries to make the term, “fraud”, a key concept of sociology. In fact, this term allows us to survey the history of sociology and to understand what is “Society”, the main issue of sociology.

**Key words:** communication, fraud, secret

---

24) Pascal, B., frag. 252.